2020年度 NPO法人森の劇場プロジェクト　活動報告書

太古と未来を結ぶ劇場活動　～遊びをせんとや生まれけむ・戯れせんとや生まれけむ・自然の中の一粒になる～

目次

１．　はじめに　・・・

２．　2020 年度実施事業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

３．　活動総括　・・・

４．　特筆事項　・・・

５．　次年度に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

最後に　・・

１．　はじめに

新型コロナウィルス感染拡大による混沌の中でスタートした 2020 年度の活動、
2014 年に長い時間軸の中で急務として委託を受けた文化委託事業は、４月２２日に中止が決定しましたが、コロナ禍という不自然な生活の中で、その任務の重要性を見えるカタチでメンバーが確認・共有することになりました。
一人ひとりが、感じることのできる健康を持ち、自分で考える勇気と、表現し合う余裕を持って活動を続けていきたいと思えましたし、
そういった自分をそうぞう（想像×創造）する場としても劇場の必要性を体感できたことは幸いでした。
結果として、規模は縮小したものの、ほとんどの活動を行うことができました。
一緒に考え、一緒に歩いてくださった多くの方々に心より感謝します。

＜　２０２０年度事業の成果　＞

コロナ禍という状況であっても、文化・芸術に全身で触れる機会の創出が継続できたこと。

これまでの五年間で、循環し始めた異種混合・老若男女（活動メンバー、活動に参加する子ども達、その保護者、活動を支える地域住民）の地域家族といった相互扶助の人間関係が、創意工夫を強いられた今年の活動であったからこそ、それぞれがその必要性を体感し、

より良く・たのしんで生きることを意識する機会が生みだされる、劇場を拠点とした地域・人間育成プログラムが、

とても大切であるということを自分事ととらえる意識が高まったといえます。
（２０２０年度意識アンケート等から）

＜　次年度に向けて　『温故知新』　改めてはじめの一歩に立ち戻ります。＞

ここにもう一度、この事業が始まったきっかけとなった津市民芸術祭特別研究事業内「三重テラス　イベント企画書」（2014 年提出）の一文を記しておきます。

『津市から発信する、地方の劇場法の育て方』
【ねらい】
今の時代の便利さや物の豊富さ、コンピューターなど科学技術の発達は、人としての身体的・精神的能力を鈍らせている。
誰もがどこかで危機感は持っていることが予測できるが、とても抽象的で手が出ない。
このことこそ、政治や学校教育ではなく芸術分野からメッセージしていく役目にふさわしいと思う。
そのことに、津市は本気の官民協働のスタイルで、いち早く取り組むことになるでしょう。

準備段階を経過し、これからこそはじまることになる、と思います。

２．　2020 年度実施事業の概要

（１）　事業目標

津市委託「津市文化創造事業」が中止となったため、コーディネーター人材育成と劇場経営への市民協働と参画の在り方のまとめをいったん保留し、森の劇場プロジェクトの活動基盤としている、『全身で感じ』『一人ひとりが考え』『表現し合うこと』に改めて注目して、森の劇場プロジェクト活動の必要性を確認する。という目標に切り替えました。

（２）　実施事業

活動推進事業　（プロジェクトリーダー会担当）－・

① 森の劇場プロジェクト活動説明会

a.　実施概要：活動理念・目標・目的　今年の活動のポイント、といった活動の土台の確認と、新しく活動に参加してくださる方への説明。

b.　実施日：6 月 27 日（土）10：00～12：00　　　　＊コロナ状況により、4 月予定を延期して実施。

c.　実施場所：津市大三公民館

d.　参加人数：20 名　　　＊新規加入者：4 名

e.　参加費：無料

② 森劇 study

a. 実施概要：企画事業の報告や分析、文化政策勉強会、社会貢献活動勉強会

b. 実施期間：5 月～1 回/月　1 年間

c. 実施回数：8 回

d. 実施場所：津市大三公民館

e. 参加人数：延べ 65 名

f. 参加費：　500 円/回

g. 実施プログラム詳細（下図）

日	時間	内容	企画者	参加人数	会場
5/28（木）	10～12	コロナ過での活動。「注意点」「共有認識」「優先順位」	長野多恵	5	ポプラスタジオ
7/30（木）	10～15	美杉八知探検　～他地域の活動の様子を見に行ってみよう～	〃	2	八知地区
8/27（木）	10～12	芸術祭について　～今年できること、今年すべきこと～	〃	7	大三公民館
9/24（木）	〃	「地域防災」　～自分事として捉える意識の大切さ～	東尾由美	１１	〃
10/22（木）	〃	次年度の状況予想　～自治体委託事業がすべてだった事実　そして今後～	長野多恵	１０	〃
12/17（木）	〃	芸術祭振り返り　～状況判断、行動選択の困難な社会～	〃	8	〃
1/28（木）	〃	環境の変化で気づくこと「転職」　～人が好きを再確認～	中西ゆかり	１３	〃
2/25（木）	〃	次年度活動予測　～まずやってみたいこと出し合おう～	長野多恵	9	〃

③ 活動総括会

a. 実施概要：年間活動の確認と評価、次年度事業予定の確認を共有する。

b. 実施日：R3.3 月 13 日（土）10：00～12：00

c. 実施場所：津市白山総合文化センター・多目的ホール

d. 実施人数：17 名　（活動に関わった高校生の参加あり）

e.参加費：無料

子どものための文化芸術体験事業（コーディネーター：長野多恵）－・

① 子ども里山そうぞう学校 2020・・・・・新型コロナウィルス感染拡大により中止

② 子ども里山そうぞう学校・専科「自然体験クラブ」

a. 実施概要：子ども里山そうぞう学校経験者（小学生）を対象に、自然環境の中にゆっくり身を置き、自分以外の多くの生き物と出会い、全身で感じじっくり観察する経験を積む、楽しく生きる力の育み活動。

b. 実施期間：7～10 月

c. 実施回数：7 回　（全日程：10：00～15：00）

d. 実施場所：鈴木牧場珠の牧　及び地元

e. 参加人数：延べ 42 名　　（一企画　8 名を定員とした）

f. 参加費：３０００円/回（保険代・昼食代・材料費・参加費すべてを含む）

g.　実施プログラム詳細（下図）

日	内容	場所	参加人数	責任者	スタッフ
7/19（日）	川で遊ぶ	津市白山町元取	台風中止	原林一廣	中井美甫（画家）、長野多恵
7/23（木・祝）	仕事と遊び⑴	津市美杉町	９（3年：４、4年：２、5年：１、6年：1人）（3、6）	井谷功	尾﨑美恵子、長野多恵
8/30（日）	仕事と遊び⑵	〃	７（3年：３、4年：、6年：1人）（2、5）	井谷功	〃
9/6（日）	山と遊ぶ	津市白山町元取	台風中止	原林一廣	川合俊平（合唱）、長野多恵
9/21（月・祝）	仕事と遊び⑶	津市美杉町	１０（3年：３、4年：５、5年：１、6年：１）（4、6）	井谷功	尾﨑美恵子、長野多恵
10/4（日）	田んぼで遊ぶ	〃	７（3年：４、4年：２、5年：１）（2、5）	筧　晴	伊藤知子、長野多恵
10/11（日）	仕事と遊び⑷	津市白山町二本木	９（3年：３、4年：４、5年：１、6年：１）（4、5）	井谷功	尾﨑美恵子、長野多恵

③　子ども里山そうぞう学校・専科「舞台表現クラブ」

a.　実施概要：子ども里山そうぞう学校経験者（小学生）を対象に、同じ空間で身体を響かせてみよう、仲間の響きを感じてみよう、黙々と取り組んで見よう、身体表現と舞台表現の体験教室。

b.　実施期間：7～12 月

c.　実施回数：１５回

d.　実施場所：津市白山総合文化センター/津市大三公民館

e.　参加人数：13 名

f.　参加費：Ⓑ日曜日組：１５０００円　～　Ⓐ土曜日組：２５５００円

g.　実施プログラム詳細（下図）

日	時間	内容	指導者	参加人数	練習場所
7/25（土）	17～19 時	基礎トレ	長野多恵/伊藤知子	Ⓐ組：7 人（4 年：4、5 年：1、6 年：2）（：1）（：6）	津市大三公民館
8/8（土）	〃	〃	〃		〃

8/22（土）	〃	物語把握	〃		〃
9/12（土）	〃	創作活動	〃		〃
9/26（土）	17～19：30	〃	〃		〃
10/10（土）	〃	表現活動	〃		〃
10/24（土）	〃	〃	〃		〃
11/1（日）	10～12 時	仕舞振付	長田郷（能楽師）	Ⓑ組：6 人（3 年：4、4 年：1，5 年：1）（🎅：6）	〃
11/7（土）	17～19：30	〃	〃		〃
11/8（日）	10～12 時	仕舞練習	〃		〃
11/14（土）	17～19：30	〃	長野多恵/伊藤知子		〃
11/15（日）	10～12 時	〃	〃		〃
11/21（土）	17～19：30	〃	〃		〃
11/22（日）	10～12 時	全体練習	長田驍・郷（能楽師）		〃
11/28（土）	17～19：30	〃	長野多恵/伊藤知子		〃
11/29（日）	10～12 時	〃	長田驍・郷（能楽師）		〃
12/4（金）	17～20 時	舞台稽古			津市白山総合文化センタ
12/5（土）	15～19 時	舞台通し			〃
12/6（日）	9～16 時	本番			〃
12/19（土）	10～12 時	Ⓐ組さよなら会	原林一廣：門松作り		津市元取公民館
12/20（日）	10～12 時	Ⓑ組さよなら会	原林一廣：　〃		〃

（基礎トレ）

（練習風景）

（舞台稽古）

（本番）

④　山の風 club

a.　実施概要：日本の風習や文化に触れながら、舞台表現の中で自分の役割を精いっぱいたのしむ。
・秋祭りの場面で、婦人会を復活させて太鼓演奏に取り組む場面を担当した。

b.　実施期間：7～12 月

c.　実施回数：16 回

d. 実施場所：津市白山総合文化センター/津市大三公民館/ポプラモダンバレエスタジオ

e. 参加人数：6 名

f. 参加費：１６０００円

g. 実施プログラム詳細（下図）

日	時間	内容	指導	場所
7 /11・25（土）	1 4～15：30	基礎トレ	長野・伊藤	大三公民館
8 /8・22（土）	〃	太鼓基礎	内田和代	〃
9/12・26（土）	〃	創作活動	長野・伊藤	〃
10/24・31（土）	〃	〃	〃	〃
11/7・14・21・28（土）	〃	作品練習	伊藤	〃
12/4（金）	１７～２１	舞台稽古		津市白山総合文化センター
12/5（土）	１５～２０	通し稽古		〃
12/6（日）	９～１６	本番		〃
12/12（土）	１４～１５：３０	振返り会	長野・伊藤	ポプラバレエスタジオ

（練習風景）

（本番）

市民による舞台芸術創造事業　（総合プロデュース：長野多恵）

a. 実施概要：ようこそ森の劇場へ「里山ばんざい芸術祭」と題した、　みんなで未来をそうぞうするための芸術祭の開催
b. 実施場所：津市白山総合文化センター
c. 実施内容：①　市民創作劇場の開催　　②　複合施設活用
d. 実施日：12 月 6 日（日）
e. 参加人数：実行委員＝7 名、当日運営担当者＝２１名、出演者＝２５人、観客＝２７１人（コロナ対応につき客席２７４設置）
f. 芸術祭参加料：大人＝１０００円　　子ども＝５００円
g. 実施プログラム詳細（下図）

日	ブース	内容	時間	企画担当者
１２月６日(日)	コモンホール	・受付「ようこそ」 ・森劇 SHOP	１２：００～１６：００ １２：００～　〃	深田亜季 子ども里山そうぞう学校卒業生サークル
	ギャラリー	・地域協力者に紹介 ・里山ポスト	９：００～　〃 １２：００～　〃	尾﨑美恵子・長野多恵 子ども里山そうぞう学校卒業生サークル
	中庭	・竹で作る癒し空間	９：００～　〃	須賀優子・市川景子
	しらさぎホール	・演劇「ふるさと　～うちらの好きな山神～	１３時（開場）１４時（開演）	伊藤知子（音楽）・笠松智子（衣装）・笠井瑞穂（技術）・森松千恵（道具）
	ホワイエ	・収穫感謝のふるまい	１５：１５～１６：００	中川ひろ子、　ブランティアひまわり会

【特記事項】　公益財団法人三菱 UFJ 信託地域文化財団様の助成をいただきました。　　【参照資料】　チラシ、パンフレット

（導入舞踊）

（劇中場面）

（フィナーレ）

（竹の癒し空間）

（展示）

（受付）

そうぞう活動アウトリーチ事業

a. 実施概要：津市河芸中央公民館よりそうぞう活動の依頼を受ける
b. 実施場所：上記公民館和室
c. 実施内容：「声を楽しむ創作倶楽部」＊前年度から継続の講座ながら、コロナ禍につき身体調整と語り合いの内容とした。
d. 参加人数：5 名
e. 担当者：長野多恵・山本佳子
f. 実施回数：10/3（土）、11/7（土）、12/5（土）の 3 回　<9：30～11：30>＊5 月スタート 6 回予定が、コロナウィルス感染状況により縮小。

その他

① 子ども里山そうぞう学校卒業生活動

日	内容	場所	参加人数	担当者
7/１８（土）	子ども里山そうぞう学校活動への協力など、意見交換会	アスト津	6	長野多恵
8/１２（水）	スクリーン印刷体験会	森松家	4	森松千恵
9/２２（火）	芸術祭活動リーダーミーティング	アスト津	2	長野多恵
１１/５（木）	市長面談「これからの素敵な劇場活用」	市役所	4	長野多恵
１１/２９（日）	芸術祭活動準備作業	大三公民館	7	森松千恵
１２/２８（月）	市長面談振り返り会	アスト津	5	長野多恵

（意見交換会）

（市長面談）

（市長面談：前葉市長）

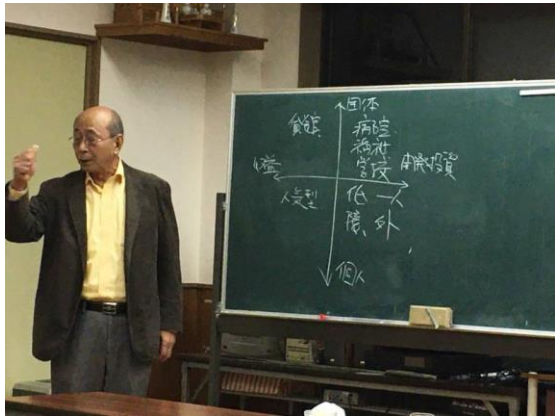
（芸術祭自主活動：里山ポスト）

② 通信の配信　「森劇通信」

発行時期	内容	制作/編集	発行部数	配信方法
１０月号（秋）	芸術祭周知　と　前期活動報告	長野多恵・森松千恵	２００	配布中心
４月号（春）	コロナ禍の新たな活動　次年度活動予告	笠松智子・森松千恵	１００	配布　＋　メール配信

③ 市民文化政策勉強会「劇場を中心とした白山町の素敵な未来を考える」

日	時間	講師	場所	参加者
12/6（日）	18～20 時	中川幾郎（公共文化政策専門家）	白山町上ノ村集会所	6 名



市民文化政策勉強会　③

官民協議　④3/18（木）

④ 官民協議

日	時間	内容	場所	出席者
5/21（木）	14～15：00	R2 活動報告と津市の文化政策構想を聞かせていただく	市役所	市長、南理事、梅本課長、長野
12/25（金）	10～12：00	R3 津市文化創造事業の方向性確認	市役所	梅本課長、中野職員、長野、伊藤、笠松
2/12（金）	10～12：00	R3 津市文化創造事業仕様書内容⑴	事務局	中野職員、家田職員、長野
3/4（木）	10～11：00	〃　⑵	一志中央公民館	中野職員、家田職員、長野、伊藤
3/18（木）	10～12：00	〃　⑶	市役所	梅本課長、中野職員、家田職員、長野、伊藤、笠松

３．活動総括

●今年度の目標達成に関して●

自然の中に身を置き、他者との共有活動による意思の疎通なしには成立しない森の劇場プロジェクトの活動は、意図せず自然環境から、そして他者から感じ・考える機会を経て行動を選択（表現）することになったと、振り返ります。

プログラムを考える大人は毎回状況をよみ万全の感染対策に努め、協力者もそれぞれが緊張を解かず行動できたことこそ目的は達成できたと判断したいと思います。

途中からは、子ども達もマスクの着脱、手指消毒など状況の判断が個々できていたと思います。

また、集大成とする芸術祭で、会えるという幸せ、思考を共有する時空に欲求があることを、制作者、出演者、スタッフ、関係者が共有したあたたかさに感動しました。　こういった心の動きは、コロナ禍での活動であったからだと思います。

このことは、今後　厳しい環境が続いても、『全身で感じ』『一人ひとりが考え』『表現し合うこと』のできる機会を諦めることなく創出していく原動力になると思います。

●活動開始から、コロナ禍という経験で締めくくった５年間を振り返ってみる●

2015 年に津市に受理いただいた「公共文化施設活用法」の関する提言書内容は、５年間の活動の中で数人の仲間内では信頼性を帯びました。

これからが、納得を持ったイベントの宣伝や活動の周知に入れるのだろうと思いました。

↓

一つ）　（仮）津市地域文化芸術活動コーディネーターといった、リーダーの存在が必要です。

✦公共文化施設の持ち主（当事者）である市民（受益者）のうち、興味を持った人、価値を感じた人、面白味を感じた人が、限られた時間と体力と思考力をもって施設の経営、企画、運営に関わることなしに、地域に受益をもたらす施設にはできないとあらためて思います。

↓

森の劇場プロジェクトの企画内容は、多く一般常識から外れている。妖しい活動だと感じます。

それは、現代認識されている常識というものが、一人ひとりがよく考えて自分の意思で行動することを阻んでいるということです。

例えば、５年前に提言書に記した「それぞれのもつ良心が集まってくることに驚く。」という内容は、津市文化創造事業から起こった活動内容が、社会に必要だから行う活動ではなく、必要だと感性がとらえるからなんとなくやらないではいられなくなる（ご縁のような）なんとなく集ってしまう、という意識を通ってなされているからだと、カラダでわかることができました。

このような人間にしかできないそうぞう活動をリードするコーディネーターは、官民の共通認識の元でつくる必要があります。

二つ）　行政組織の文化芸術を振興していくという部署には、専門性を持って長く活躍してもらえるプロデューサー的存在が必要です。

この５年間でなんと３回の行政担当者の異動がありました。
ここで、市民にできる創意工夫は、実践 学び　実践　学びを繰り返し、市民が達者になりたいと思います。
行政という組織との性格を逆にもつ良き相棒になりたいと思います。
それには、やはり（仮）津市地域文化芸術活動コーディネーターという存在を明らかにしていく必要があると思います。

●コーディネーターの役割●

１．協力してほしい地域や人の性質を感じたうえで、依頼（あなたが必要だという気持ちを伝える）すること。
２．協力活動が終わった後、その成果を関わったメンバーで振り返り報告すること（ありがとうの気持ちを伝える）。

上記に２点が、５年間の時間の中での実感です。　このことができていけば、違ったモノ同士を繋げ新しいエネルギーを創出することができます。
特別なことではありません。ご縁を紡ぐことができるだろうと感じています。

行政との話し合い（要望）を続けながら、今年からは意識的に独自にコーディネーターの育成・練習に入ります。

４．特筆事項

⑴ 2020 年 4 月 22 日新型コロナウィルス感染拡大により津市文化創造事業は中止となりました。

⑵ 2020 年 4 月 1 日　特定非営利活動法人森の劇場プロジェクトとなりました。
津市の理念に寄与できる市民の法人活動となっていこうと思います。

⑶ 公益財団法人三菱ＵＦＪ信託地域文化財団様より、「里山ばんざい芸術祭」の取り組みに 50 万円の助成をいただき、
コロナ禍試行錯誤をしながら、芸術祭を開催することができ大きな学びの場を継続することができました。

⑷ 岡田文化財団様より 2021 年度　「里山ばんざい芸術祭」の市民創作劇場事業を助成活動に選考していただきました。

５．次年度に向けて　『温故知新』をキャッチフレーズに、かわらず太古と未来をつなぐ劇場つくりに取り組みます。

❶ 津市文化創造事業を受託し、委託事業の整理（＝子どもの文化芸術体験事業）をします。より本質的な取り組みにしたいと考えます。

❷ コロナ禍に対応する、活動を創意します。　長い目で探求していくスタンスを大事にします。
新しい取り組みとして　１.）みんなのシアター・共栄座　　２.）Wellbeing Tour 企画　を実験的に行ってみます。

❸ 専門的な勉強会を開催してみます。amagaL（Artistic　Mutual　Aid　Governance　Amazing　Laboratory）
公共文化政策のスペシャリスト：中川幾郎先生をアドバイザーに、公共文化施設の中で多くの市民が活かされ、それは津市全体の幸せにつながっていくビジョンを持って１年間　学んでみます。
特に公共施設指定管理者制度のことと、コーディネーターの育成を捉えていきます。

（まとめ）上記三点を中心に、
顔と名前がわかる丁寧な活動
よいと実感することを声に出す機会、共有する機会を大事に、たのしんで生きる自分自身のそうぞう活動をかわらず目指します。

会えてうれしかった。

ありがとうございました。

また、来年もお会いします。

報告書制作：長野多恵